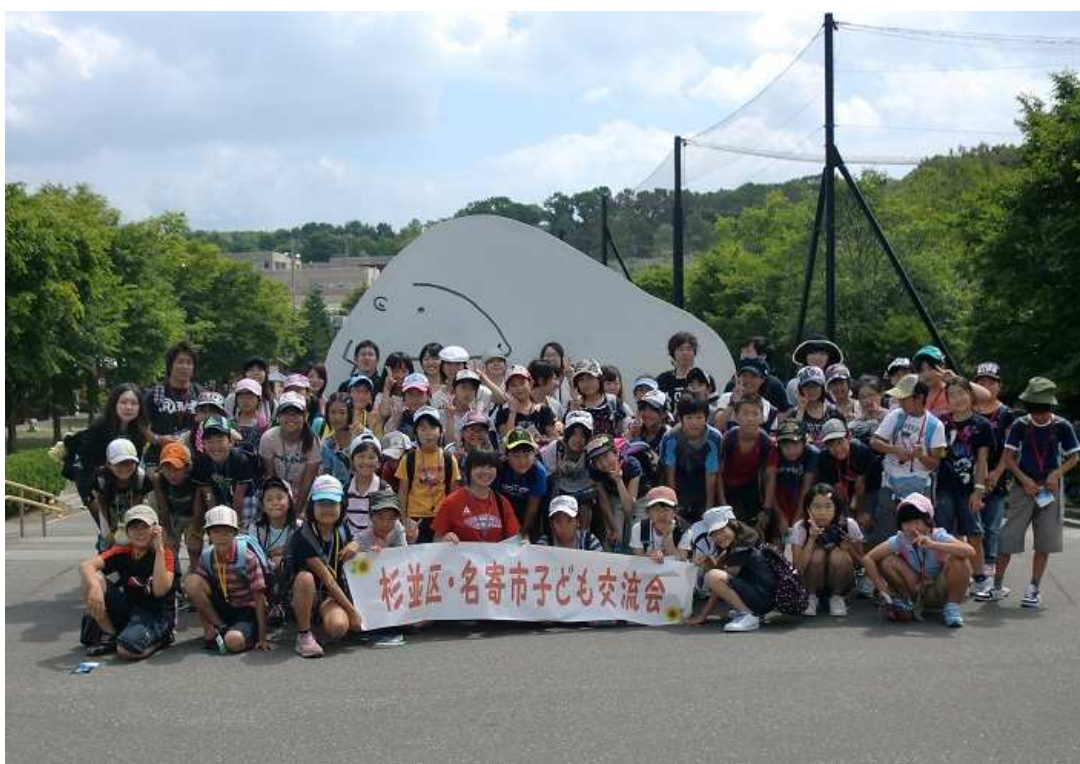


教育なよろ

平成24年度



都会っ子体験交流事業（名寄会場）

平成24年7月30日 旭山動物園

名寄市教育委員会



市章

名寄市の英頭文字「N」をモチーフに、合併する風連町と名寄市の住民が、溢れる自然の恵みに天を仰ぎ感謝し、北の都をみんなで力を合わせ創り上げ発展していく様子を表現しています
(平成18年3月27日制定)

名寄市民憲章

私たちは、秀峰ピヤシリを望み、天塩川の恵みに育まれた美しい緑と樹氷きらめくまち、名寄の市民です。厳しい風雪に耐え抜いた開拓者精神を受けつぎ、郷土を愛する心を大切にしながら明るく、生き生きとした名寄市の発展に努めます。

じぶん ほこ せきにな
自分のまちに誇りと責任をもち、

はな あ
みんなで話し合いながら、

す
住みよいまちをつくります。

けんこう たいせつ
からだところの健康を大切にし、

たが あたた おも
互いに温かい思いやりをもって、

あんしん く
安心して暮らせるまちをつくります。

ゆた しぜん まも そだ
豊かな自然を守り育て、

しぜん ちょうわ く かんきょう
自然と調和した暮らしの環境をととのえ、

かいてき
快適でうるおいのあるまちをつくります。

たの はたら そうぞうりょく はつき
楽しく働き、創造力を発揮し、

ゆた く ほこ
豊かな暮らしを誇れる

かつりょく み
活力に満ちたまちをつくります。

ちせい かんせい
知性と感性をみがき、

ゆた ひと かお たか ぶんか はぐく
こころ豊かな人と薫り高い文化を育み、

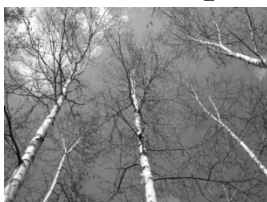
きぼう かがや
希望に輝くまちをつくります。

(平成19年2月26日制定)

【名寄市のシンボル】(平成18年7月25日制定)

市の木

「シラカバ」



市の花

「オオバナノエンレイソウ」



市の鳥

「アカゲラ」



目次

名寄市の概況	
Ⅰ 教育行財政	
1 名寄市教育目標	1
2 教育委員会	2
3 名寄市の教育財政	5
Ⅱ 学校教育	
1 平成24年度名寄市学校教育推進計画	8
2 市内小中学校の概要	14
3 幼稚園教育	16
4 学校給食センター	17
5 名寄市立大学・名寄市立大学短期大学部	20
6 就学の助成	26
7 各種助成制度	29
8 名寄市教育研究所	30
9 その他学校一覧	32
Ⅲ 社会教育	
1 平成24年度名寄市社会教育推進の重点	33
2 生涯学習課・名寄市公民館の事業計画	34
3 風連地区生涯学習・ 名寄市風連公民館の事業計画	40
4 名寄市智恵文公民館の事業計画	44
5 スポーツ振興事業計画	46
6 市内体育施設	52
7 名寄市児童センター	56
8 名寄市青少年センター	59
9 名寄市教育相談センター	60
10 名寄市北国博物館	61
11 市立名寄図書館	65
12 なよろ市立天文台	67
Ⅳ 資料	
1 審議会・委員会	69
2 旧名寄市教育の沿革	72
3 旧風連町教育の沿革	79
4 名寄市教育の沿革	83

名寄市の概況

1 位置・地勢

名寄市は、北・北海道の長流天塩川が形成する名寄盆地のほぼ中央に位置し、東は雄武町と下川町、西は幌加内町、南は士別市、北は美深町と接しています。その市域は、東西に約30km、南北に35kmの四角形に近い形となっており、535.23km²の行政面積を有しています。

道路は南北に国道40号、東側に国道239号が通り、また鉄道は南北に宗谷本線が走っており、古くから交通の要衝として幅広い生活圏域を形成した本市は、道北圏の中心都市として発展してきました。

気候は、日本海気象の影響を受ける内陸部に属していることから寒暖の差が激しく、夏冬の温度差は60℃にも及びます。夏季は昼夜の温度差が大きく、冬季は寒気が厳しく降雪量も多い気象条件を有しています。



2 沿革

風連地域は、明治32年、旧村名「多寄町」の名称のもとに剣淵村外3カ村戸長役場の管轄に入ったことにはじまり、風連村を経て昭和28年の町制施行で風連町になりました。

名寄地域は、明治33年、山形県東田川郡東栄村（藤島町を経て鶴岡市）の有志により曙地区に開拓の鍬が下ろされて以来、上名寄村、名寄町を経て、昭和29年に旧智恵文村と合併後、昭和31年に北海道内21番目の市として市制を施行しています。

こうした中で、古くから地理的・人的つながりの深かった両市町は、人的・財政的基盤を強化する必要の高まりを背景に、平成18年3月27日に新設合併して「名寄市」が誕生しました。

3 人口と世帯数

平成24年9月末日現在 人口 30,071人 世帯数 14,634世帯
《内 外国人 144人 120世帯（複合世帯含む）》